

水産防疫対策委託事業（水産動物疾病のリスク評価，国際基準・情勢に対応したアクティブサーベイランス等の実施）（令和5年度／国庫委託）－栃木県におけるアユ冷水病発生株の調査－

野中信吾・高木優也・武田維倫・吉田豊・酒井忠幸・村井涼佑・小堀功男

要 約

2023年に栃木県内で冷水病を発症したアユ50個体から，部位別に釣菌を行って冷水病原因菌株120株を単離した。河川由来の冷水病原因菌83株と養魚場由来の37株について，2020年に高野らにより開発されたマルチプレックスPCR法を用いて遺伝子型分類を実施した。

河川由来株についてはCDC5型とCD45型が全体の92%を占め，調査を行った13地点中4地点で，同時に複数の遺伝子型が確認された。また，この4地点において釣菌を行った22個体中4個体(18.2%)で同一個体から複数の遺伝子型の菌株が検出された。

養魚場由来株については，CDC5型とCD45型のみが検出され，養魚場ごとにそれぞれ単一の遺伝子型のみが確認された。

なお，本課題の詳細については「令和5年度 水産防疫対策委託事業（水産動物疾病のリスク評価，国際基準・情勢に対応したアクティブサーベイランス等の実施）報告書」により農林水産省へ報告した。

（水産研究部）